

岡山県連機関紙掲載事故一報

県連遭難対策委員長 小林 卓郎

- ① 発生日時 2025年8月1日(金)9:30頃
- ② 場所 北ア・槍ヶ岳北鎌尾根・天狗の腰掛と独標の中間尾根
- ③ 事故者 岡山勤労者山岳会 男性 68歳
- ④ 事故概要 北鎌のコルを4:30発。本人の調子が上がらず、荷物を取るも、歩行が覚束ない。9:30の時点で行動不能となり、110番通報する。
11:00に長野県消防ヘリによりピックアップ。松本空港にて、警察の事情聴取を受ける。医療行為の必要なしと判断され、そのまま帰宅した。
- ⑤ 傷病名 無し(疲労に寄る体調不良)
- ⑥ 教訓 4人パーティーでの遭難事案である。事故者本人の体調管理にも問題があったものと思われる。
自分の体力を過信した為の典型的な事故ではないか?「自分の技量に見合ったルート選びをする」という基本的なことが果たして出来ていたのか?
CLが「行きたい」と言うメンバーを本人の実力以上の、バリエーションルートへ安易にパーティー内に加えていたのではないのか?
この夏の暑さは、これまでの経験が通用しないレベルに変化して来ています。
この傾向は、今後も続くとの予報です。下山するまで体力や集中力を切らさないことが重要です。

遭難に至るまでの経緯

7月31日 行動二日目

槍沢ロッジ5時発～水俣乗越6時半～天上沢～北鎌沢出合 11時半～北鎌沢右俣～北鎌のコル 17時着

水俣乗越から天上沢を下降するが、シーズン初めなのでルートが踏まれていない。

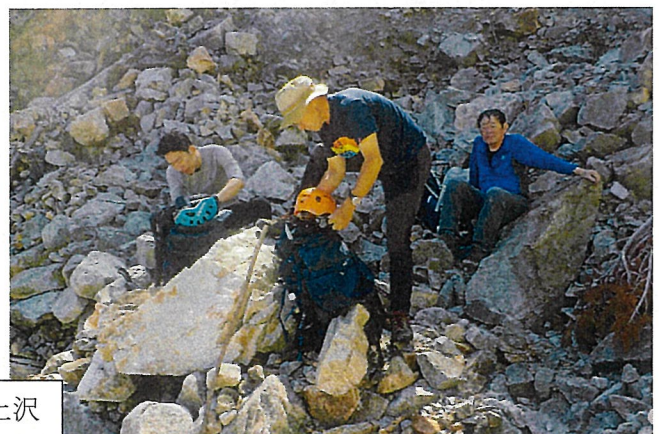
しかしながら特に困難なく、北鎌沢出合まで進み右俣に登路をとる(ここまではDも特に問題なく行動する)

北鎌沢右俣下部は問題なく進むが、上部は雪が消えたばかりで踏まれていない 足元の定まらないザレで消耗して思いがけず時間をとられる(この登りでDはへばり遅れる。最後はザックをとりコルに行き着く)

当初の目論見では独標あたりまで進んでビバーク予定だったが、コルでテントを張る(Dは回復して食事、睡眠も十分とる)



天上沢





北鎌沢右俣



北鎌のコルでテントを張る

8月1日 行動三日目

北鎌のコル 4時半発～遭難地点付近 8時半～ヘリピックアップ 10時50分

前日の遅れを取り戻すべく4時半にスタートするが、Dの調子が上がらない。ザックの共同装備やシュラフなどをとり励ましながら進むが、8時半過ぎに事故一報の緯度経度地点で停止する。しばらく様子を見るが、ルートは独標をトラバースする核心部を控えているので無理と判断して9時半110番通報、10時50分にヘリでピックアップされる。



北鎌尾根



遭難地点付近



ピックアップ

残ったメンバー3人はこの後縦走を続け、無事下山した。

遭難対策委員会での見解

判断ミス、レベル差、連れてって山行になっていたのでは

Q.歩けなくなるまで（パーティーを）進めてしまったことは？

: CL の、「止まる」「引き返す」等の判断は早くすべきだったが、パーティーの雰囲気
が（それを）させなかったのかも？と思われる。

4 人のうち 2 人（CL60 代・SL70 代）はルート経験者、1 人はルート未経験だが 40 代と
若い。68 歳の事故者はルートの経験はないが、本人のこれまでの経験から冬山、クライ
ミング、沢、バリエーションを経験してきた人であり、何度か同行して信頼して今回の山
行に加わってもらった。

北鎌の経験はないが安易に連れていった、連れてもらったというハイキングレベルの関係
ではない。事故原因はこれまでの経験レベル以上の体力消耗に尽きる。

シーズン初めのバリエーションルートは経験があるから大丈夫は通用しない。

山 行 計 画 書

岡山勤労者山岳会

〔山域〕 北アルプス 槍ヶ岳北鎌尾根

〔目的〕 バリルートを楽しむ

〔日時〕 2025年7月30日(水)～8月2日(土)

〔登山本部〕

〔日程〕

7月29日 岡山 21時発～平湯(あかんだな)

30日 上高地～横尾～槍沢ロッジ(小屋泊)

31日 槍沢ロッジ～水俣乗越～天上沢～北鎌沢右俣～北鎌のコル～独漂～北鎌平(テン泊)

8月1日 北鎌平～槍ヶ岳～槍ヶ岳山荘(小屋泊)

2日 槍ヶ岳山荘～上高地～岡山

3日 予備日

〔個人装備〕

ザック、シュラフ、シュラフカバー、マット、ツェルト、クライミングに適した服装、カッパ、防寒着、帽子、手袋、着替え、ヘッドランプ、行動食(3日分)、非常食(2日分)、朝食1、夕食1、スマホ、個人薬、保険証、地形図、コンパス、時計、新聞紙、サングラス、ヘルメット、ハーネス、カラビナ(環付き、普通)各3枚、シュリング3本、8環、ガスカートリッジ1、コンロ、コッヘル、食器類、水筒3L、ロール紙、防水ビニール袋

〔共同装備〕

ザイル30m、テントエスパー、テントマット

テン泊の食事は各自

〔メンバー〕

	氏 名		住 所	TEL
CL	A	69M	岡山市北区	
SL	B	70M	岡山市南区	
	C	43M	岡山市北区	
	D	68M	瀬戸内市	0
	E	51F	岡山市中区	

注 Eは7月30日槍沢ロッジ泊、8月1日まで槍ヶ岳診療所勤務、2日下山 槍ヶ岳合流

岡山県連機関紙掲載事故一報

県連遭難対策委員長 小林 卓郎

- ① 発生日時 2026年1月10日(土) 10時15分頃
- ② 場所 兵庫県姫路市 裏明神(西の小明神山) 556m
- ③ 事故者 倉敷ハイキング倶楽部(KHC) 女性 65歳
- ④ 事故概要 ヘルメット着用し、岩場を登っていた際、常設ロープを手掛かりにしていたが、滑落して岩場途中の鞍部に引っ掛かり、宙吊りで止まった。
足にロープが絡まっており、足場が悪い為、自力救助不能と判断して119番 通報し救助要請した。ヘリにより、ピックアップされ「はりま姫路総合医療 センター」に収容、診察・治療を受けた。骨折等はなく、当日に帰岡した。
- ⑤ 傷病名 左手甲、肘擦傷。右手2ヶ所擦傷。右膝裂傷。左顎擦傷。全身打撲。
- ⑥ 教訓 4人パーティー(男性2名、女性2名) CL(男)が、最初に上り、2番目に事故者が登り掛けて、自分には難しいと思い、一旦、下りたものの、もう一人の女性が上ったのを見て、再び、トライして転滑落したと云う。CLから巻き道を行くようにアドバイスされていたが、聞かずに滑落してしまった。
見栄を張る意識があったのか? 別の要因があったのか? 不明である。
補助ロープで確保する方法や、計画書の装備表にあるシュリング、カラビナ、ハーネス等が活かされていなかった点も問題があったのではないかと。
途中で止まったのは「不幸中の幸い」であったが、その下は、まだ転滑落の恐れがある急斜面だったという。死亡事故に繋がり兼ねない重大事案である。
残った3人で、事故者の保温に努めた等の処置は、傷病者の容体が悪化しないよう最善を尽くす必要があり、なるべく苦痛を和らげるための処置が必要 なことから、対応は間違えてはなかったようである。

「裏明神コース(裏明神ルート)」

兵庫県姫路市の明神山にある上級者向けのバリエーションルートです。

垂直に近い岩場やロープが連続する非常にスリリングなコースで、初心者やソロでの入山は避ける必要があります。アルプス岩稜歩きのトレーニングとして人気です。

コースの特徴と注意点

- ・難易度：上級者向け。体力とバランス感覚に加えて、岩やロープを安全に使う技術が求められます。
- ・危険箇所：尾切れコースや、T字尾根、V字尾根などがあり、滑落の危険がある急勾配と岩場が続きます。
- ・ロープについて：岩場にはロープが設置されていますが、古いものや強度が不明なものもあります。
ロープに完全に頼らず、自分の手足でしっかりと岩を掴んで登る技術が必要です。
- ・ルート整備：一般的な登山道とは異なり、道標(案内板)はほとんどありません。
事前の地図読みとGPSアプリの準備が必須です。 <AIによる概要 YAMAP より>

1. 概要 2026年1月10日、裏明神にて発生した滑落事故は奇跡的に怪我ですんだが、重大事故と考える。関係者（S、F、H、J）へのヒアリングを実施したので、以下に事故の経緯と現場状況、計画段階の情報、問題点、原因を整理し、今後の取組みを提案する。

2. 事故の経緯（時系列）

9:37 荷物は約5kg。全員ヘルメットを装着し、Sさん（リーダー）を先頭に、Fさん、Hさん、Jさんの順で尾切れ登山口から出発。

9:53 最初の岩場（高さ約25m）に到着。

- ・高さ約19m地点のテラスまで全員が登る。残り6mは切り立っており、ホールド・スタンスが少なく、3本のロープが下がっていた。
- ・Sさんが左側のロープを使って登頂。
- ・Fさんが同じルートを試みるも登り切れず、いったん引き返す。
- ・Hさんが右側のロープを使って登頂。
- ・SさんはFさんに巻き道の使用を指示したが、FさんはHさんのルートで再トライ。

図1 岩場の断面概要

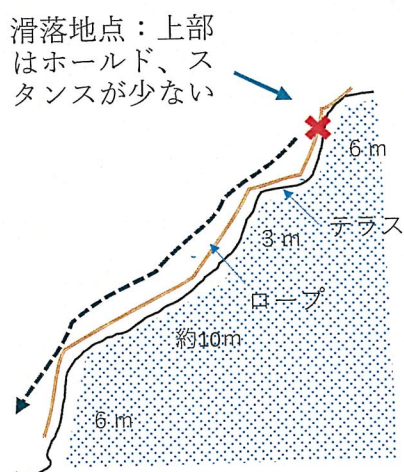


図2 岩場の頂上から下を俯瞰

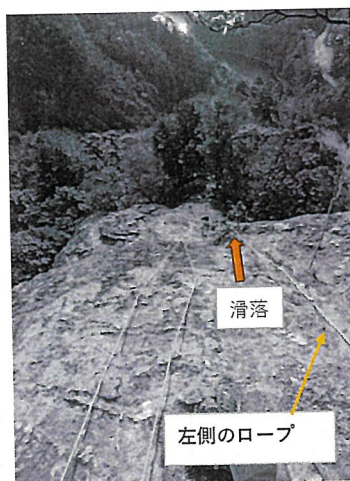


図3 岩場最後の6m



10:15 Fさんが右側のロープを使って再挑戦。途中で行き詰まり、左手で左側のロープを掴もうと横移動した際バランスを崩し、背中から落ち、途中横回転しながら約20m滑落。その際左足首にロープが絡まり、逆さ宙吊り状態で停止。Fさんの意識は明瞭だったが、足場が悪く自力での救助は困難と判断。補助ロープで転落防止処置を実施。

10:23 119番通報

11:06 救助隊が現場に到着、Fさんをヘリで搬出

腫れ、痛みはあるが、骨折なしのため、裂傷等の治療を受け、当日中に帰宅。

3. 事故現場の状況

- ・天候：晴れ、ほぼ無風
- ・地形：斜度約60度の乾燥した岩場。明瞭なホールド・スタンスは少ないが、フリクションは効いていた。

4. 登山前の準備状況

- ・当該コースの経験者はHさんのみ。他のメンバーは初めてのコース。
- ・Fさんは「Sさんから声掛けがあり、当初は明神山と思っていたが、後に裏明神と判明。事前にYouTubeでコースを確認した」。
- ・Fさんは岩場の訓練（三点支持等）を色々受けていた。

5. 問題点の整理

- A) 確保がない状態で、難度の高い岩場を登った。
- B) リーダーから巻き道を使うよう指示があったにもかかわらず、再度難ルートに挑戦した。
- C) 岩場の訓練は受けていたが、今回はさらに難易度の高いルートだった。
- D) 残置ロープの状態を十分に確認せず、登攀ルートについての協議も不十分。
- E) Fさんは当初、明神山と誤認して参加を表明し、後に裏明神の難ルートであることを知った。（事前にコースの難易度が共有されていなかった。）
- F) Fさんが巻き道を選ばず再挑戦した際、同行者は判断を本人に委ねた。

6. 事故の原因分析

リスク感受性の低下（A, C, D, F）

→ 危険箇所での判断力や慎重さが欠如していた。

リーダーの指示に従わなかった（B）

→ 本人、同行者ともに。

事前調査・情報共有の不足（D, E）

→ コースの難易度やリスクについて、参加者間で十分な共有がなかった。

7. 今後の取組み（案）

① 難コース（岩場、雪山）についてコース情報の事前共有を徹底。

・登山届時、山行管理担当が危険箇所がメンバーにも共有されているかを確認する。

② ヒヤリ・ハットの共有と記録 ⇨ 学習によりリスクへの感受性を上げる。

・講習会等で体験や気づきを共有し、リスクに対する感受性を高める。

・記録を残し、今後の山行計画時に活用する。

8. 結言

昨年の広戸仙での事故に続き、今回も重大な滑落事故が発生しました。いずれの事例にも共通して見られるのは、事前の情報共有不足による難コースへの認識の甘さと、危険箇所でのリスクテイクの甘さです。これらの反省を踏まえ、難コースに対する倶楽部としての方針の見直しを含め、再発防止に向けた取り組みを強く推進する必要があります。最後に、迅速かつ的確な対応で救助にあたってくださった消防・警察関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

同一内容のワード書式もあります。

登山計画書(届)		届出年月日		日本勤労者山岳連盟所属 倉敷ハイキング倶楽部					
		2026/1/4		提出先：山行管理担当E-mail [redacted]@googlemail.com					
		受理年月日		上記アドレスへEメールまたは下記へファックス [redacted] FAX: 086-455-9100					
提出先	コンパス 260104740821	届出者	氏名 [redacted] 電話 [redacted]						
山名・山域	裏明神 (西の小明神山) (556m)								
山行期日	2026年1月10日 (土) (日帰り)								
山行目的	KHC内自主山行								
山行主催者	KHC内のグループ・サークル	他会・クラブ(県連内)	他会・クラブ(県連外)	旅行社等のツアー					
登山本部 (留守本部)	氏 名 大月 敬一	住 所 総社市駅前	電話番号 090-8710-5229						
ル ー ト 及 び 日 程 表	裏明神 コースタイム		4時間00分		標高差：340m				
	岡山集合場所 7:30		== 備前IC 8:10	== 山陽姫路西IC 9:00	== 菅生ダムP 9:30 9:50				
	10 オブジェ分岐 11:10 11:20		20 西の小明神 11:40 12:00	20 オブジェ分岐 12:20	60 丁字尾根登山口 13:20				
	山陽姫路西IC 14:10		== 備前IC 14:50	== 岡山集合場所 15:40					
				10 菅生ダムP 10:00	70 尾切れ登山口 10:00				
				20 菅生ダムP 13:30 13:40	80 20				
				10 菅生ダムP 13:30 13:40	110 30				
					240				
参 加 者	役割	氏名	性別	年齢	会員・非	現住所 (市町村名まで)	本人連絡先	続柄	緊急連絡先
	CL	[redacted]	男	68	会員	[redacted]	[redacted] 6	妻	[redacted]
	レス	[redacted]	女	58	会員	[redacted]	[redacted]	子	[redacted]
	救護	[redacted]	女	65	会員	[redacted]	[redacted]	夫	[redacted]
	SL	[redacted]	男	66	会員	[redacted]	[redacted] 0	妻	[redacted]
装 備 ・ 食 糧	個人	長ズボン、長袖シャツ、登山靴、ザック、ザックカバー、帽子、手袋、カッパ、ヘルメット、シュリンゲ、カラビナ、ハーネス ヘッドライト、飲料水 (1L)、昼食、行動食、非常食、地図、コンパス、レスキューシート、自薬 筆記用具、健康保険証、携帯電話、防寒着							
	共同	ロープ、ナイフ、ライター、ツェルト、救急医療品							
エスケープ ルート等	来た道に戻る。								
備 考									

* 登山計画書(届)は「所轄警察本部・警察署またはコンパス」、「下山連絡先 (登山本部)」及び「KHC山行管理担当(上記アドレス1か所へEメールまたはファックス)」宛てに提出する。

* 下山届は登山本部(留守本部) 及び指定された登山届け出先へ電話連絡またはメール送信等すること。

* 装備・食料は例示であるので、実際のものを記入すること。

* 個人情報保護に十分注意し、情報流出を防止すること。



～安全登山に向けた栃木県連の取り組み～

栃木県連ではアルパインを目指す者の減少、会員の高齢化、また公的機関による救助体制にも変化がある中で、救助隊組織を数年前に解消し現在は県連の中に安全登山部を置き、その中で会員への遭難対策や危急時の対応等、安全登山に向けた様々な取り組みを行なっている。

(1) 岩の上り下り練習会

初心者を対象にした岩場での歩行、上り下り、トラバース、鎖や梯子の通過方法などの練習会を年4回程行なっている。

(2) 危急時におけるロープワーク、搬出技術講習会

山行時に常時所持している装備（カラビナ2個、スリング2本 補助ロープ 15m程度）の範囲内でできる引き上げと、ツェルトを利用した担架での搬送方法の講習会を行なっている。内容は登山道から数メートル程度の転落をして自力では動けない者を想定し、登山道への引き上げやチームレスキューへ引き渡しをするまでのもので、引き上げは1/1、1/2、ツェルト搬送はポール4本を使用した担架搬送である。

注意しなくてはならないことは、ロープワークは実際の事故現場で確実に行えないと二重の事故につながる恐れがあるので、普段ロープを扱う登山をしていない者には、基本的なものを確実に習得させるのが大事である。（例えば：フリクションノットはプルージックだけにし、マッシャーやクレイムハイストは使わない、仮固定はやらないなど）

(3) 講演会、救急法講習会

怪我・急病等時の救急法、また登山のための健康管理など安全登山に結びつく講演会等を開催している。

(4) その他安全登山につながる活動

○日光地区の登山道の整備、避難小屋の維持管理

栃木県と「避難小屋の維持管理に関する覚書」を結び、白根山五色沼避難小屋、温泉ヶ岳避難小屋の維持管理、登山道の整備を行ない安全登山と危急時に備えている。

○「栃木県山のグレーディング」の活用

県内101座の登山ルート of 難易度・体力度を情報提供することで、自分にあった山選びをすることで山での事故を未然に防ぐように促している。（HP：栃木県山のグレーディング）

○栃木県山岳遭難防止対策協議会や県内の山岳4団体との協働

他団体と山に関する様々な情報交換や、環境保全・自然保護を目的にした登山道整備、携帯トイレの普及活動を実施するなど、安全登山につながる取り組みを行なっている。

2026年7月4日～5日

栃木県勤労者山岳連盟 安全登山部責任者 池谷友夫

ヤグラ(確保訓練設備)の説明

2026/7/4

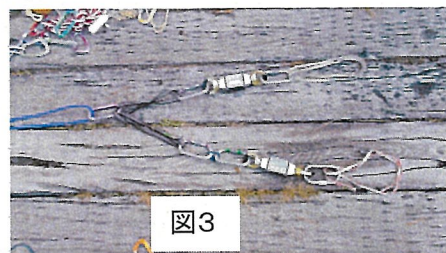
大阪府勤労者山岳連盟
教育遭難対策部 富永

1. 所有、管理について
ヤグラは近畿ブロックが所有している確保訓練設備で、大阪労山が管理して設備。
設置:1996年10月

2. 所在地 (図1)
兵庫県神戸市北区道場町生野
JR福知山線道場駅徒歩20分



3. 外観図 (図2)
幅5m X 奥行 3m X 高さ12m
4. 利用目的
墜落確保訓練、確保の実験、懸垂下降訓練、確保システムの実験など
5. 利用事例 (図3)
エンフォーサー(ロードセル)を用いたスリング破断試験
(動画参照)

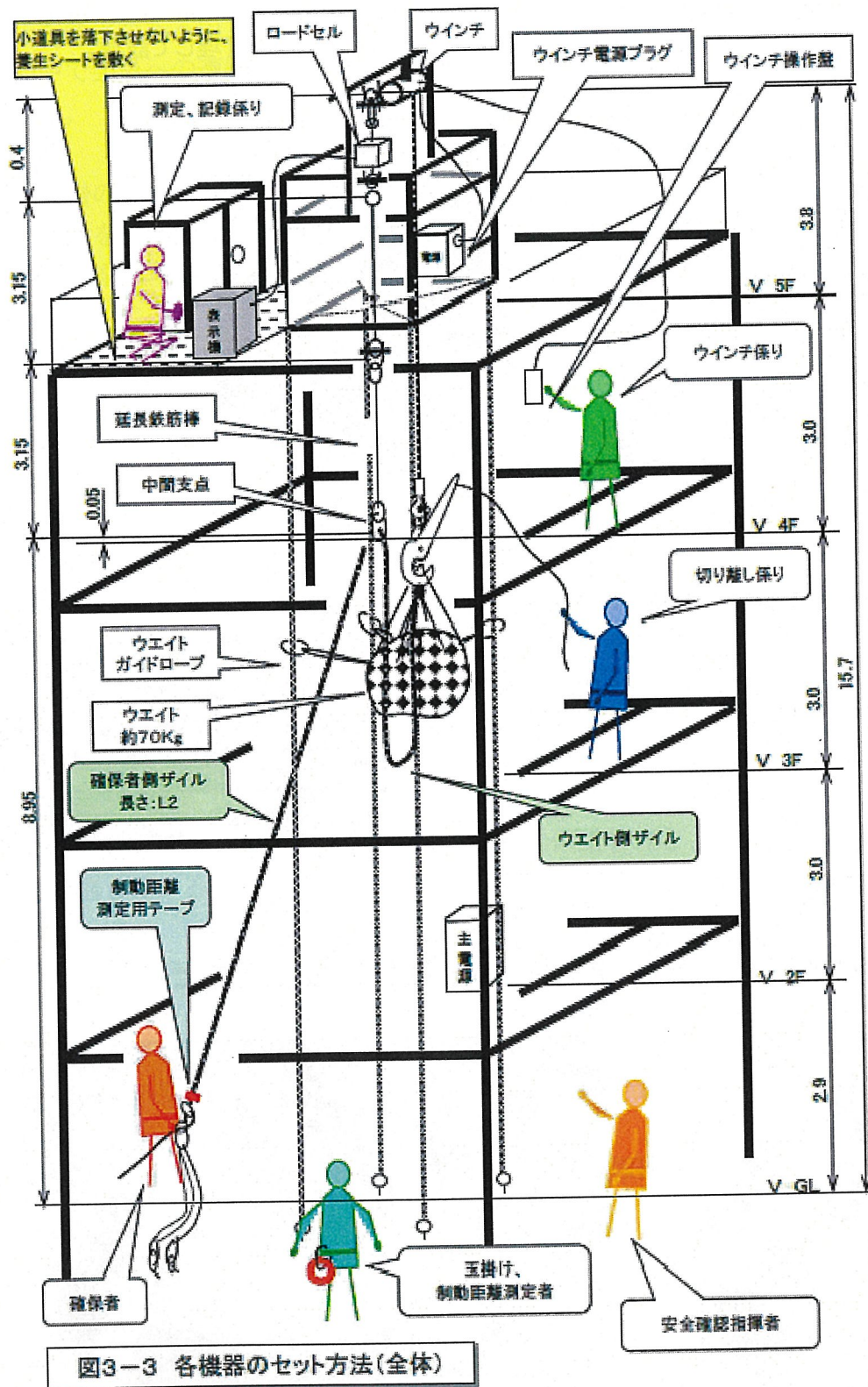


6. メンテナンスについて
 - ・2024/3/24 に30年使用したホイストを更新 (図4)
 - ・2026/5/30 ヤグラ最上部の最大荷重負荷のかかるビームを更新 (図5)
 - ・**2026年度に地上での確保者アンカーの改善予定(安全性向上)**

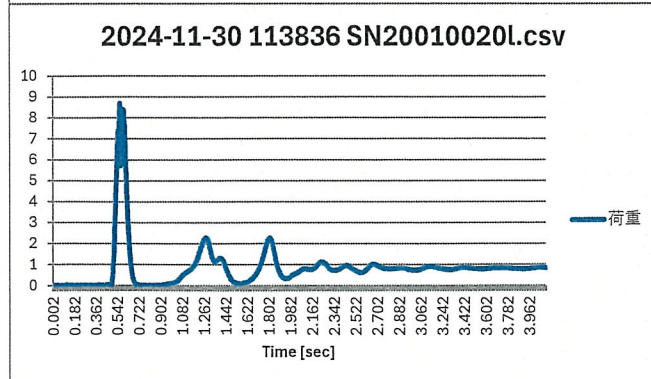
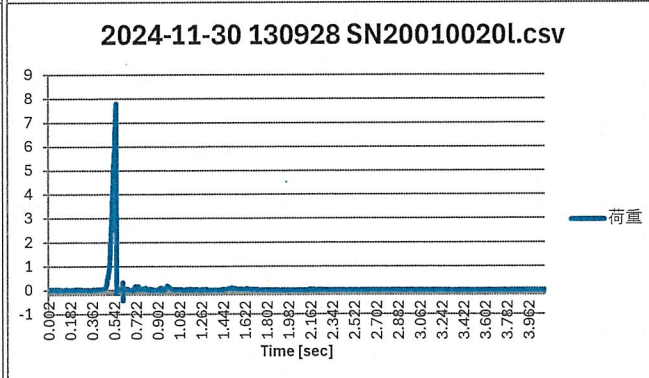
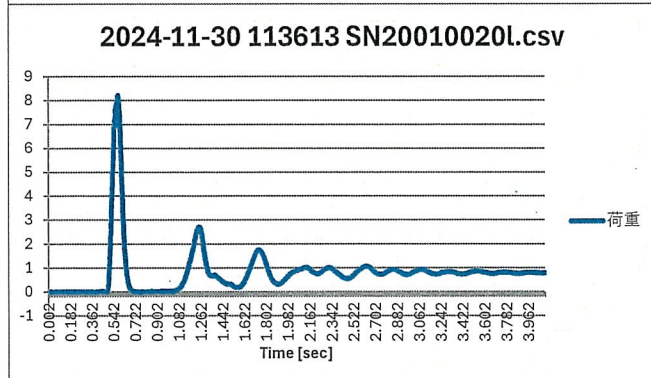
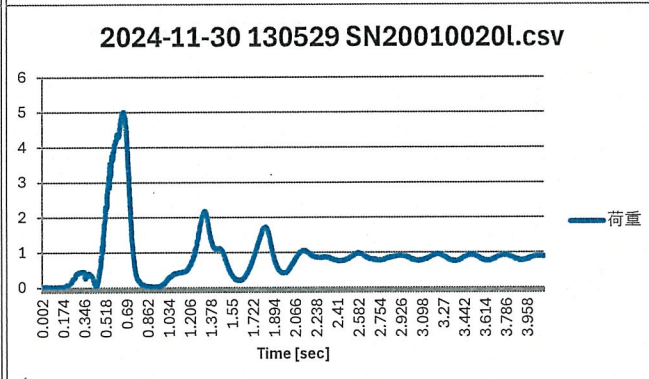
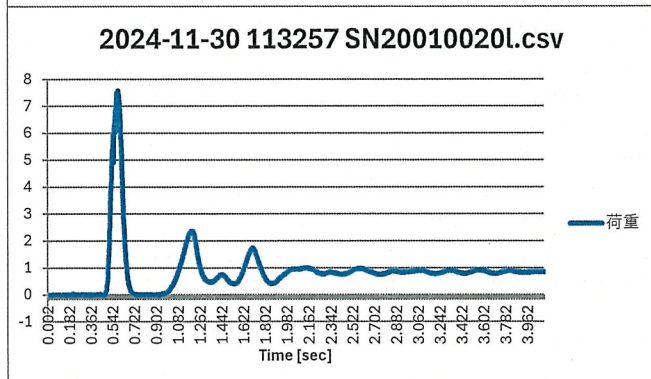
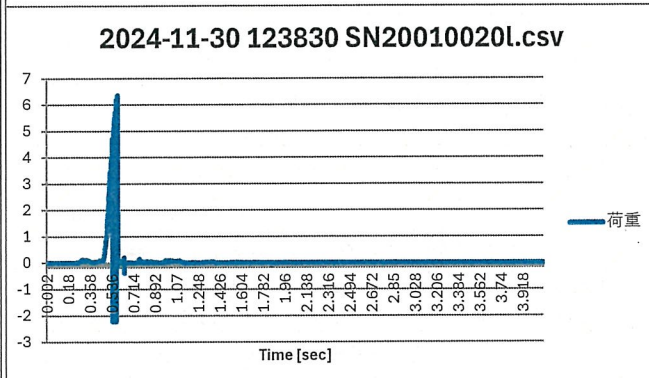
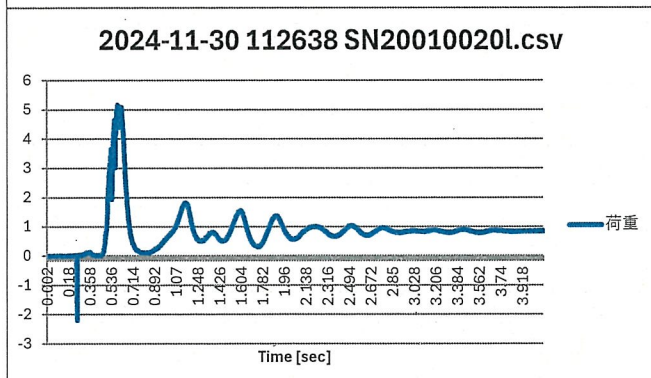
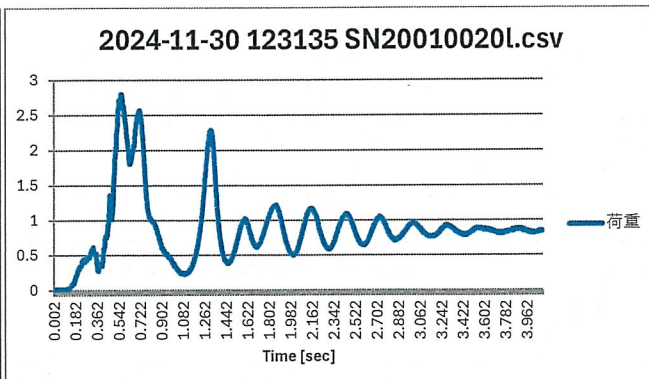
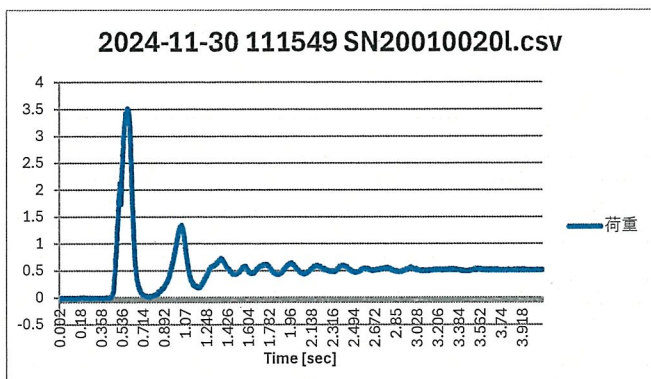


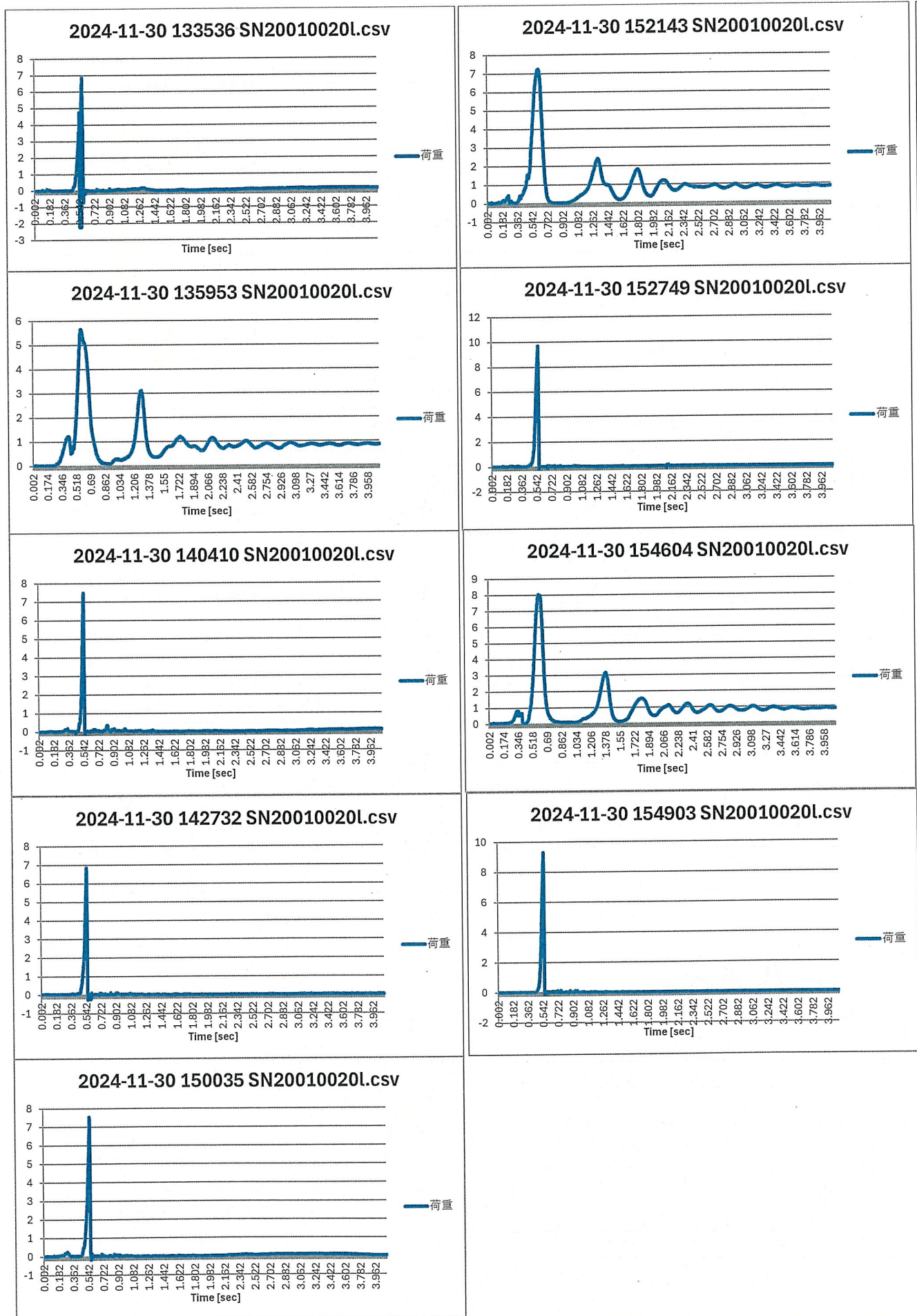
7. ヤグラ使用時の概略設備配置

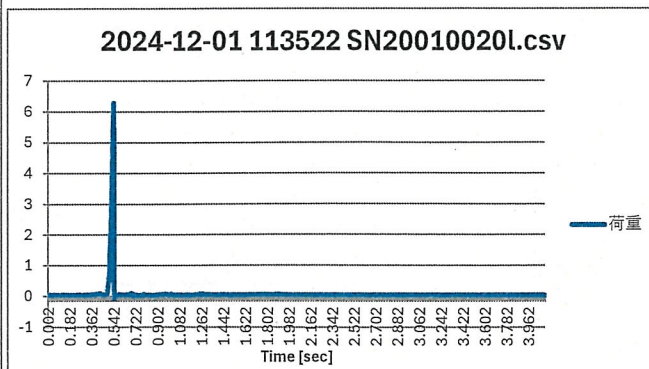
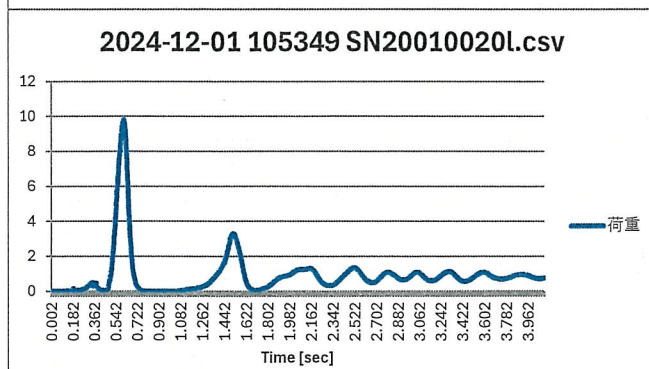
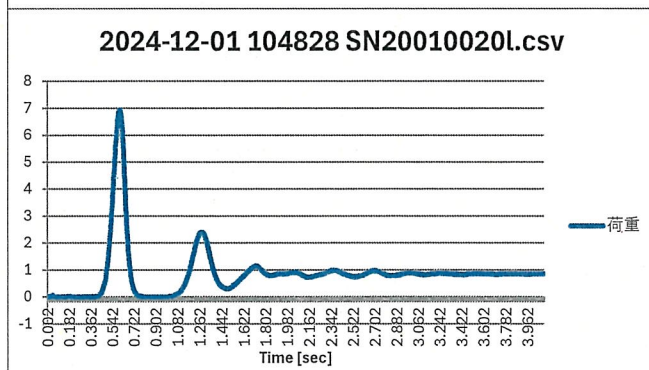
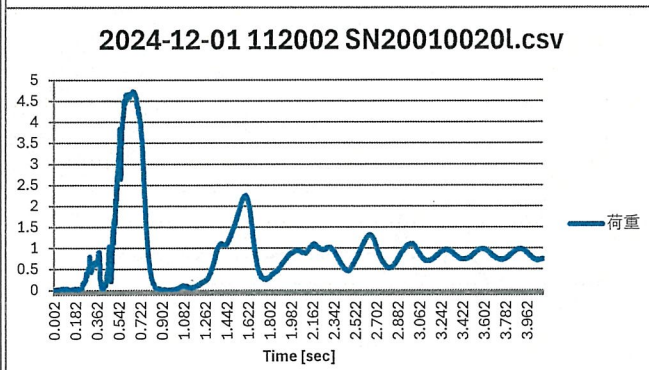
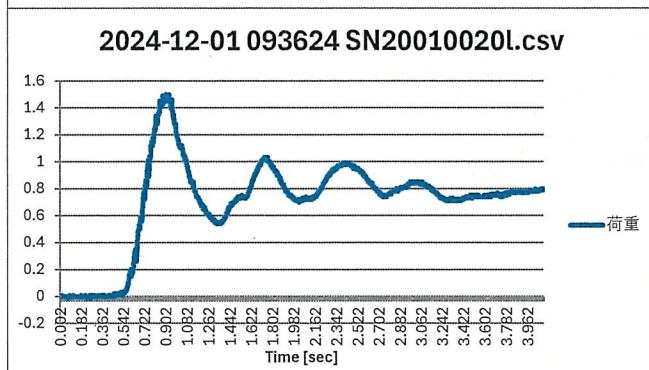
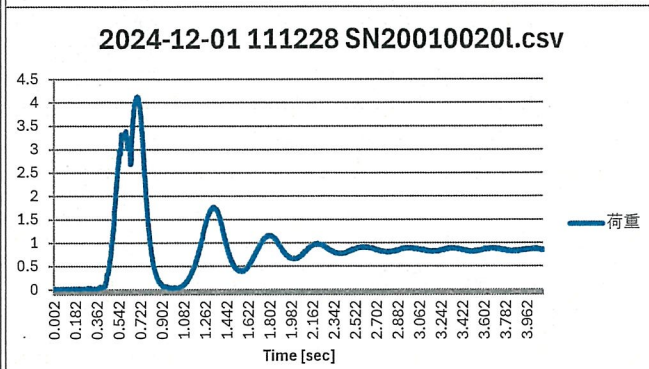
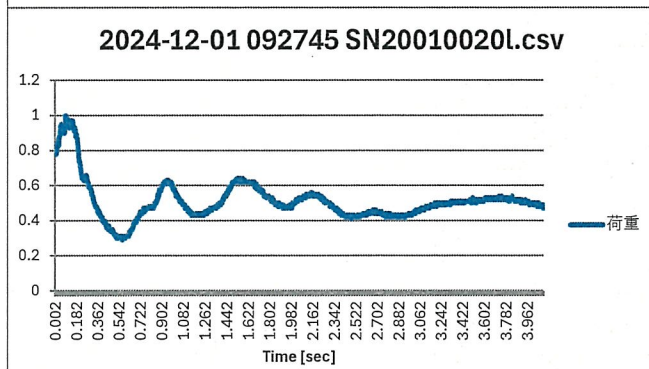
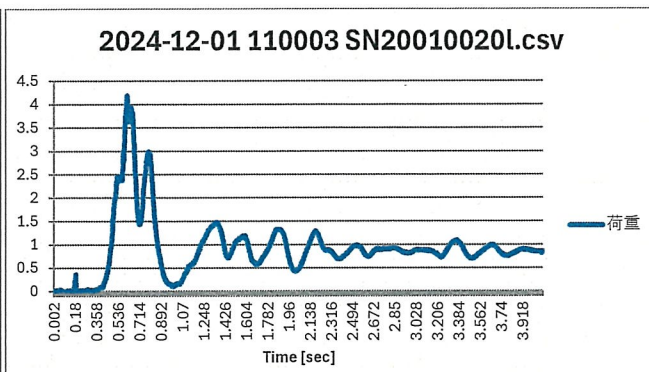
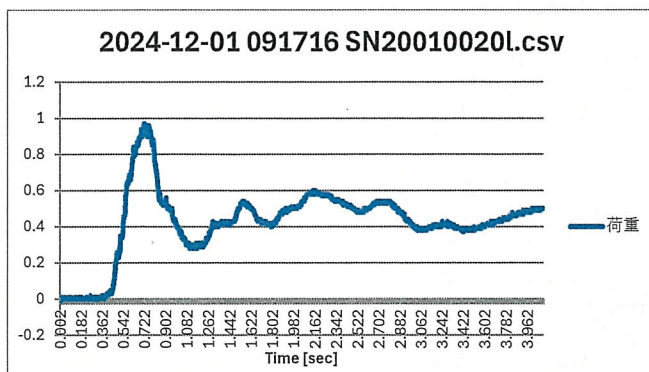
6

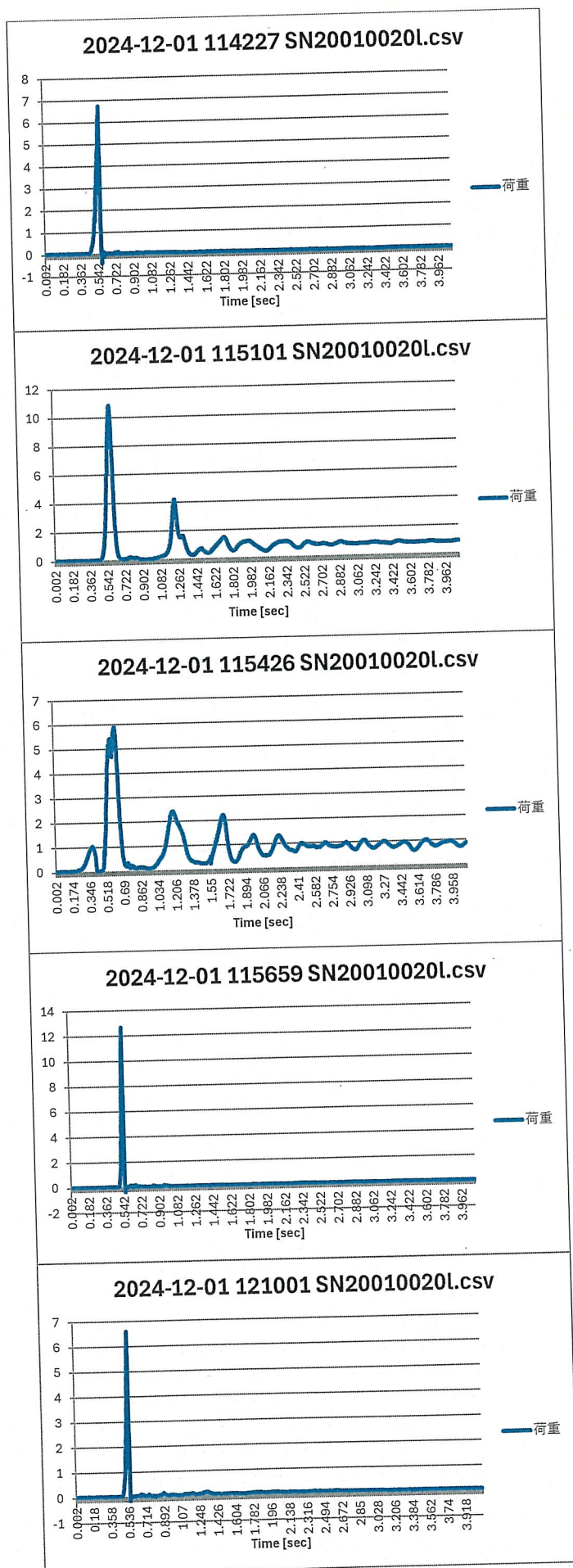


百文やぐら確保訓練設備使用方法c2.xls//機器セット











MOUNTAIN SEARCH ALLIANCE COUNCIL

官民連携による山岳遭難対策の新たな枠組み

「山岳搜索連携協議会」の全貌

安全な山岳観光の未来を築く、官民連携の新しい枠組み

01 BACKGROUND

設立の背景と直面する課題

- 3,000人超** 年間の遭難者数 — 救助需要が急増し、現場が逼迫
- 財政圧迫** 多額の搜索費用が自治体財政を継続的に圧迫
- 制度遅れ** 急増する需要に対し、制度整備が追いついていない

02 MISSION

協議会が目指す目的

- 技** 探す時間を短縮する技術の標準化
位置特定・搜索技術の共通基盤化を推進
- 制** 制度改善による公的機関の負担軽減
救助コスト構造を見直し、持続可能な体制へ
- 条** モデル自治体による「条例など」の推進
先進事例を全国展開するための制度設計

03 STRUCTURE 協議会の組織構成

FOUNDERS

発起人 / 自治体首長

- | | |
|-------------|----------------|
| 新潟県
南魚沼市 | 長野県
駒ヶ根市 |
| 岡山県
総社市 | 富山県 ★代表
南砺市 |
| 富山県
立山町 | 岐阜県
郡上市 |

PRIVATE PARTNERS

民間団体 / 予定

- ・ 日本山岳会
- ・ 日本山岳・スポーツクライミング協会
- ・ 日本山岳ガイド協会
- ・ 日本勤務者山岳連盟
- ・ 全国山の日協議会 / その他企業会員 ほか

SECRETARIAT

事務局

一般財団法人
国際災害対策支援機構
(FIDC)

自治体連携・防災支援のノウハウで
運営統括を担う